

安心と希望の医療確保ビジョン

看護師の仕事のあるべき方向性

東京医療保健大学

坂本 すが

4つの視点

1. NTT関東病院(急性期病院)の変化
2. 医師も看護師も疲労困憊・道半ば
3. 看護師の仕事は何か
4. 表舞台へ

看護部長として10年間

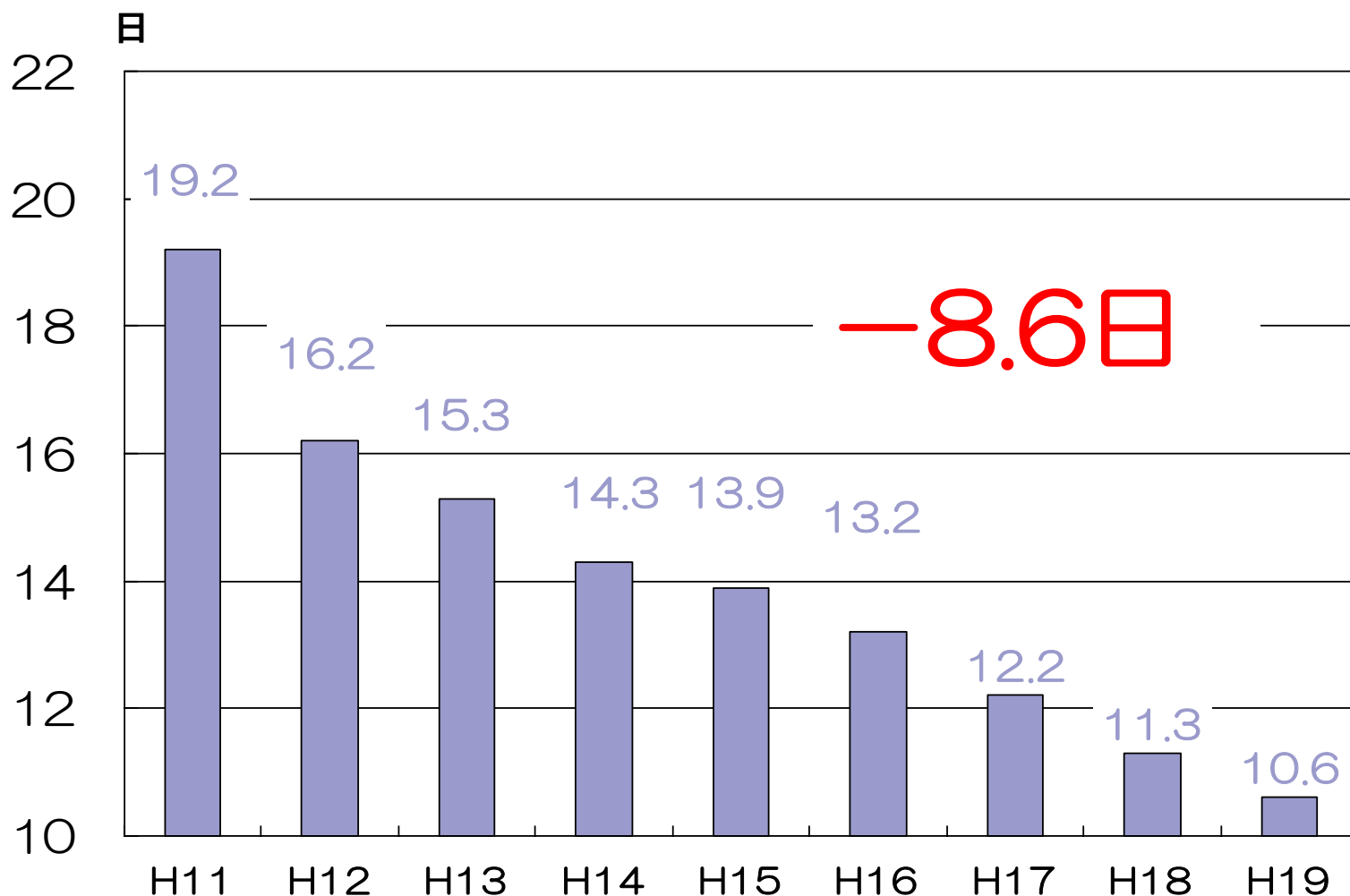
- 平成9年：平均在院日数と紹介率に基づく評価
- 平成12年：外来機能の分化促進

在院日数短縮から端を発した

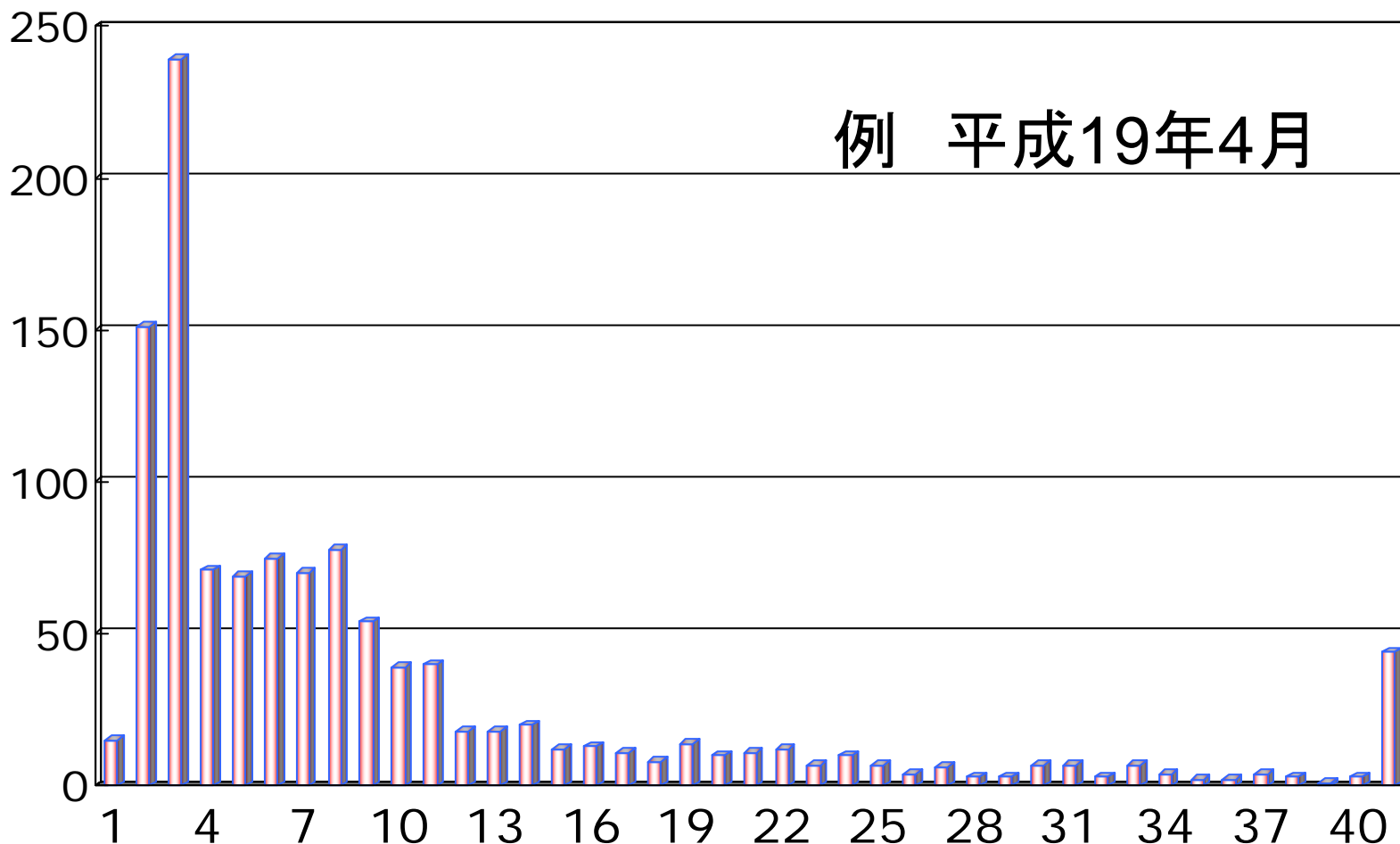
- 平成15年：ハイケアユニット加算
- 平成18年：DPC適用拡大、地域連携パス評価
- 平成18年：7対1の看護師増

在院日数の短縮

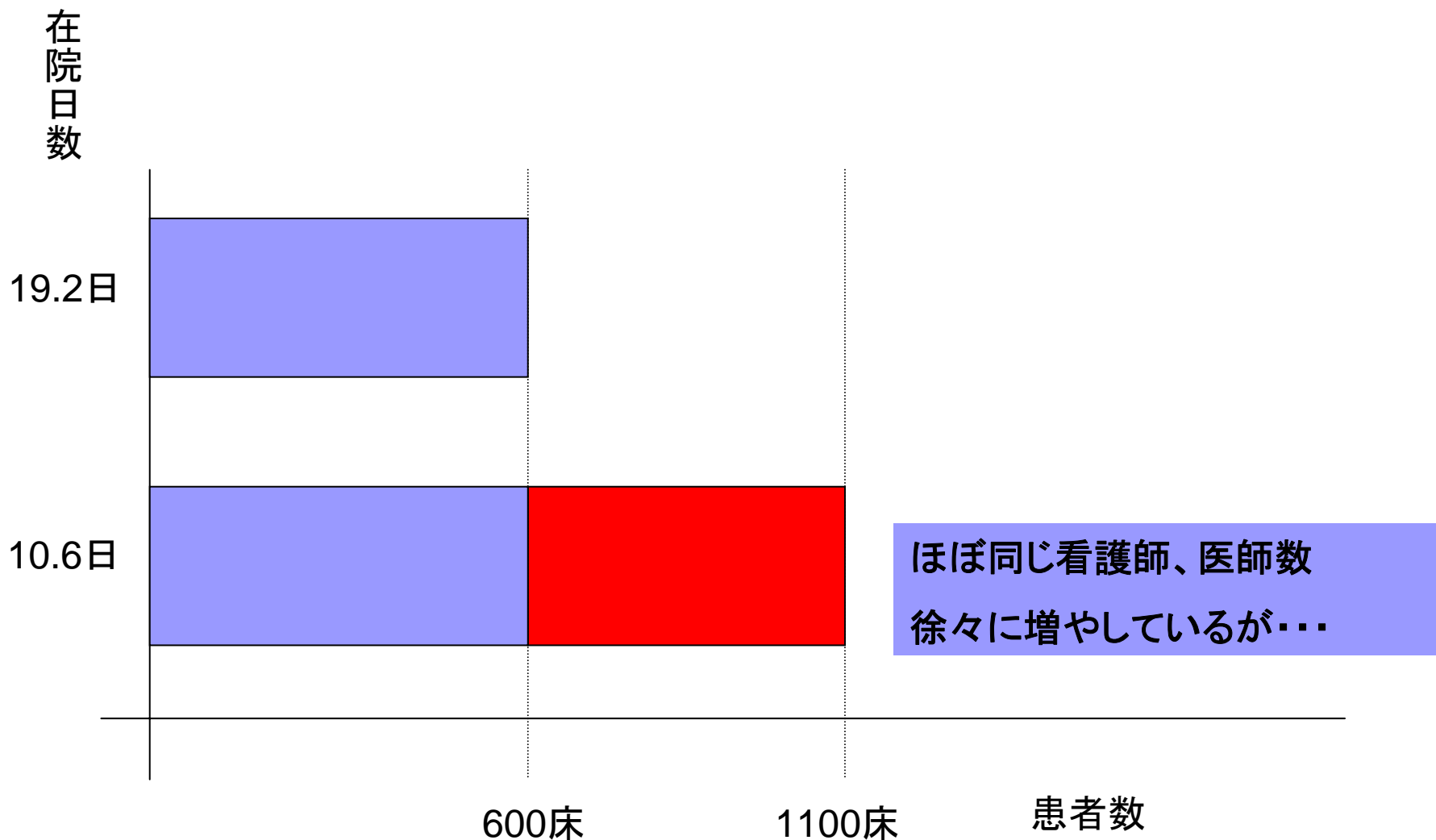
平成11年から平成19年までの推移（精神科・緩和ケア科を除く）



患者の1/3は3日以内、1/2は6日以内、 7割は9日以内



入院患者数がほぼ倍増した



患者さんの入れ替えが激しい

曜日別入退院患者数 (平成20年2月)

(単位:人)

合計
39人

95人

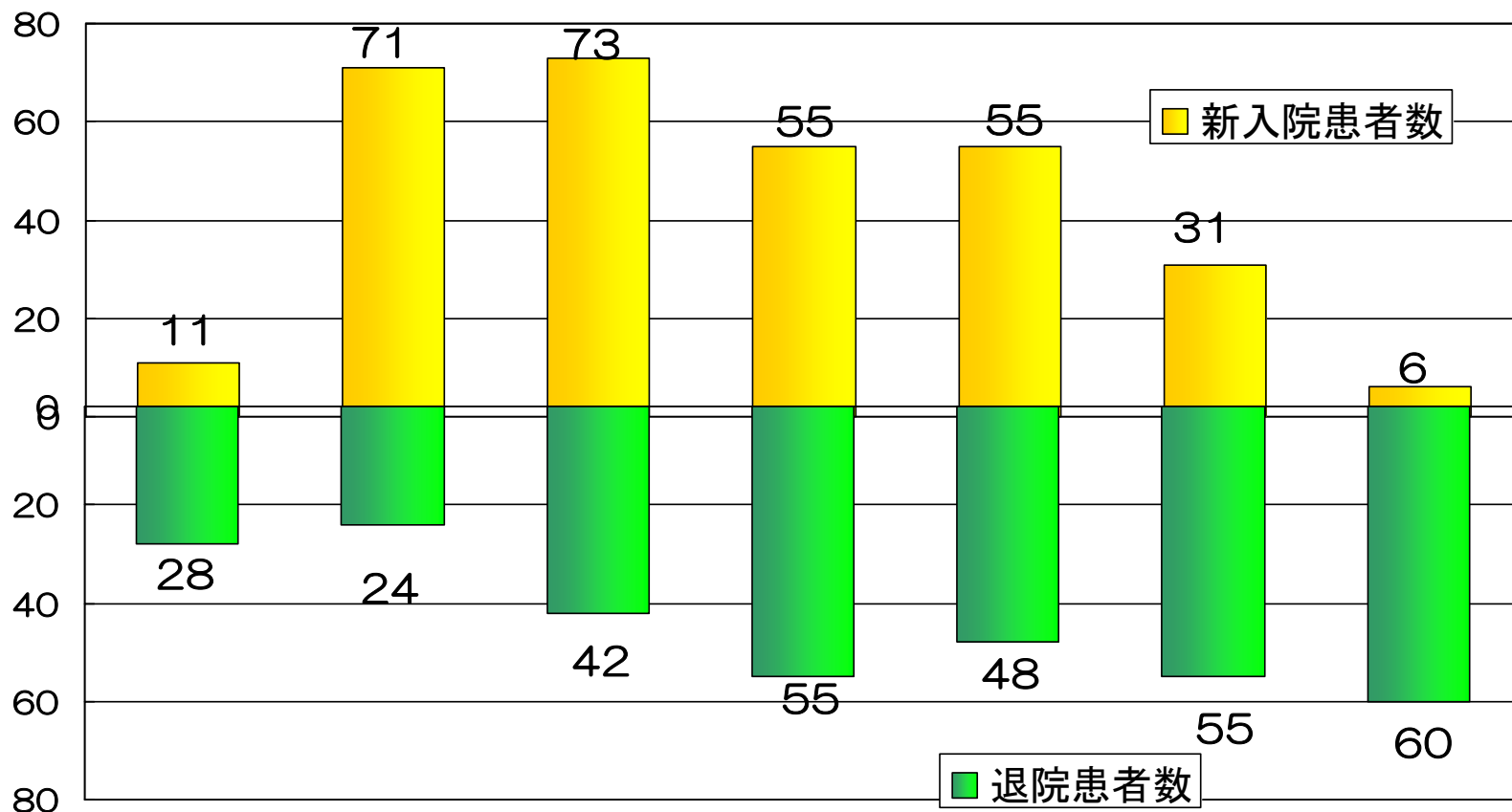
115人

110人

103人

86人

66人

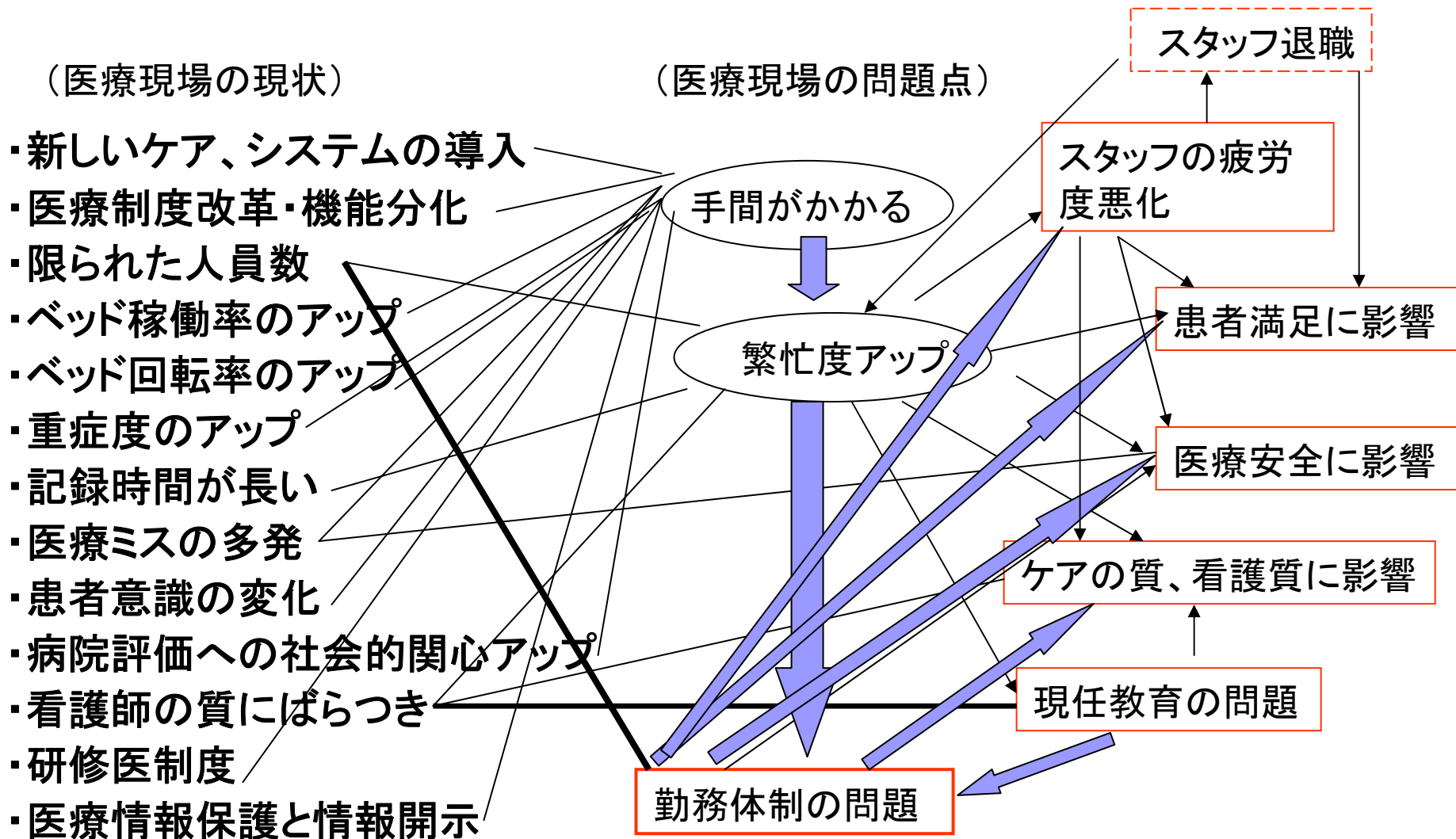


	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
在院患者数	459人	506人	537人	537人	544人	518人	464人

医師や看護師等が気ぜわしくなった

- 患者さんの入れ替えが激しくなった
- 看護師も医師も疲労困憊している
- ほぼ倍働いている気持ち

一般的な医療現場の現状(見てきた中で)



患者のタイプの混在

重症度の違うタイプの患者が、すべての病院にくる！

- 救命救急を要する患者
- 外来へ紹介書をもって歩いてくる患者
(他病院で精査・治療のため)
- 外来へ紹介書をもたず、とびこんでくる患者
(自分で自己判断して、病院へくる)
- なんらかの処置が必要だが、急性期病院対応が必要ない患者

機能分化が必要

急性期病院で勤務してきたなかで感じたこと

- 病院も機能分化（急性期病院、専門病院など）
- 病院の中も機能分化
- 患者ニーズとスキルミックス
必要なところに必要な看護師を投入する
例えば、救急センター
特定分野に卓越した看護師など

院内のスキルミックス

外来看護師には
外来・手術・病棟
の調整をおこなう
高度なスキルが
必要



入院

外来

手術室

病棟

入院が決まったときに
退院まで見通せるように

回復支援と
リスク管理



現状

そのなかで患者も看護師も
医師を待たなくてはいけない

医師がすべての指示を出さなくては いけない体制には限界がある


患者数が倍増し、入れ替えが増加する中で
すべての指示が医師に集中するのは



医師も疲労困憊している
急性期病院における医師増は必要と思うが



全てが医師に集約されない状況を
看護師業務の見直しと看護師の裁量権の拡大



看護師の仕事を
どうしていったら良いのか？

一般的に思い浮かぶ看護師の仕事

看護業務

医師の指示の下
実施する医療処置



与薬

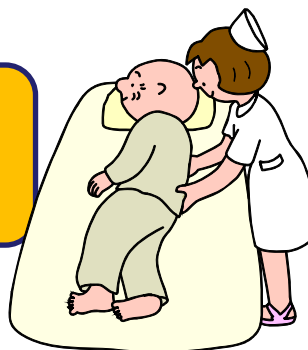


点滴



注射

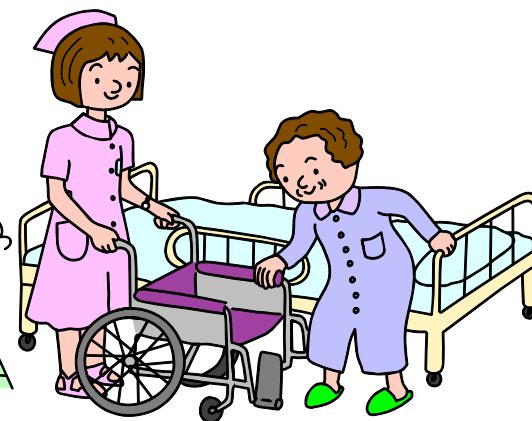
療養上の世話



体位変換



入浴介助

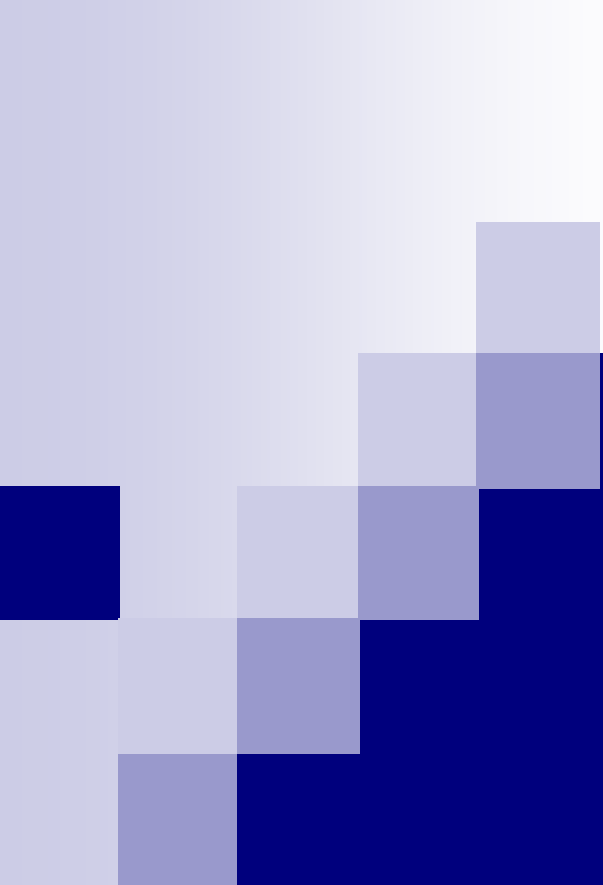


車椅子での移送

実は、

- 24時間ケアしながら
- 医師の説明補充
- 患者が気にかけている事を説明する
- 家族との話し合い、相談
- テレフオントリアージ(救急センター)
- テレフオンメディシン
- ケアギバー

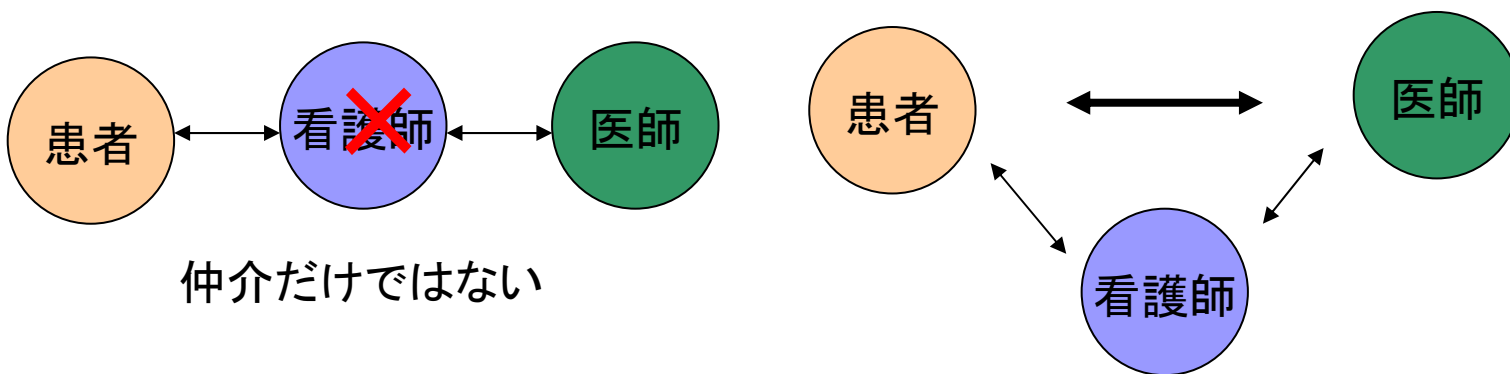
これを強化



実は看護師は間隙手 (かんげきしゅ)の役割も

間隙手（かんげきしゅ）とは

- 自らが仲介役だけではない
- 目標に向けて患者と医師等とがスムーズにやり取りができるように、両者に働きかける



両者から聞く・働きかける

患者さんに対しての目標は同じ

- 医師 薬剤師 看護師 職種は違っても
- 患者さんの最適化という目標は同じ

- プロとプロのインターフェースに位置する
- 機能が細分化したプロの集団には、全体を見ている人が必要＝看護師

患者さんを支えながら チームの力を結集する

- 看護師は主体的に判断し、行動する
- 決して医師の配下ではない
- 何のためか？
- リスクを起こさないように最適な方法を手配し
最適にケアを受けられるように

これからの看護師の仕事のあり方

- 医師や他の職種、患者のパートナーとして
- 患者の生活支援をしつつ
- 予防－治療－在宅のインターフェイスに位置し
- 患者の最適を目指していく**間隙手**としての役割を担う

急性期病院だけではない
在宅看護にも通じる



看護師を表舞台へ



間隙手が優れている
病院は安全・安心